

「自ら学び、心豊かに、共に生きる生徒」 の育成を目指して

2019年度

甲田中2学期制



本校は、校訓「自律・敬愛・進取」のもと、教育目標「自ら学び、心豊かに、共に生きる生徒」の実現に向け、「学・心・体」の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成に取り組んでいます。その礎ともいえる、確かな学力、社会性、健康的な生活習慣などを身に付けさせるためには、中・長期的な視点をもったカリキュラムを構成することが大切です。

これまで本校では、3学期制の枠組みの中で指導と評価を繰り返して生徒の伸長を図ってまいりましたが、より長期的な時間の区切りの中でじっくりと個別指導や繰り返し指導をする時間を確保し、より一層個に応じた指導を行うため、2019年度から2学期制を実施することとしました。

2019 青森市立甲田中学校

〒030-0853 青森市金沢3丁目11番1号
TEL 017-776-7625
FAX 017-776-2990
URL <http://aomoricity.ed.jp/koudachu/>

甲田中学校では2学期制のよさを生かした教育活動の充実を目指しています

A：教育制度の改善

2学期制の実施により「生きる力」を豊かに育てます。

◎4月1日から3月31日までの1年間を、前期と後期の2学期に分けます。

《新》2学期制

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
春休み	始業式	定期テスト	定期テスト	夏休み	期末テスト	終業式	秋休み	始業式	定期テスト	冬休み	定期テスト	期末テスト	卒業式	修了式	春休み
前期							後期								

《これまで》3学期制

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月						
春休み	始業式	中間テスト	期末テスト	終業式	夏休み	始業式	実力テスト	中間テスト	期末テスト	終業式	冬休み	始業式	実力テスト	期末テスト	卒業式	修了式	春休み
1学期				2学期				3学期									

【2学期制の概要】

- ① 学期の区切りは、前期を4月1日から9月30日、後期を10月1日から3月31日とし、それぞれ半年の期間に2回の定期テストと1回の期末テストにより、個々の学習状況を踏まえた指導を行い、学力の伸長を図ります。
- ② 年間授業日数については、3学期制の学校と同じになります。
- ③ 前後期の区切りとして、9月30日に秋休みを1日設けます。（秋休みの1日分の授業日数は、冬休みを1日少なくして確保します。）
- ④ 夏休み、春休みの時期は、3学期制の学校と同じになります。冬休みについては、他の学校より1日遅れて始まります。
- ⑤ 夏休み、冬休みの長期休業中に、個々の学力を伸ばすことができるよう「定期テスト」の結果をもとに、きめ細かな支援・指導を行います。
- ⑥ 評価は前後期の2回として、学期末の通信票でお知らせします。また、長期休業に当たっては、個別に学校生活や学習の状況等について、面談等で保護者にお知らせします。

B：教師のきめ細かな指導

個に応じた指導を一層充実させます。

- ◎ 課題にじっくり取り組む機会と時間を設けます。
- ◎ 学校行事の時間や内容を見直します。
- ◎ よりきめ細かな学習指導に努めます。
- ◎ 生徒と向き合う時間を多くします。
- ◎ 長期休業中の過ごし方を支援します。
- ◎ 学習のリズムと連続性をもたせるために学習・評価サイクルを工夫します。
- ◎ 学習状況をわかりやすく保護者に伝えます。
- ◎ 一人一人の進路を考え、学校生活の充実を目指した教育相談に努めます。

2学期制 Q & A

Q 1 なぜ2学期制なのですか？

A 1 学校教育において、今、次のような課題があります。

- ・学習内容を確実に身に付けさせるためには、**きめ細かな指導や評価**が重要となります。そのためには、基礎的なことを繰り返し学習し、学習内容を確実に定着させていくための長い期間が必要です。
- ・本校では、学力の向上が課題となっています。基礎的・基本的な内容を定着させ、教科の指導をより一層充実させていくためには、**授業時数をしっかり確保**する必要があります。

Q 2 2学期制のよいところは何ですか？

A 2 ①学習のサイクルが長くなり、その期間に評価を繰り返すことで学力の向上を目指します。

- ・各学期の評価・評定を行うまでに、教科ごとに基礎的・基本的内容の定着を把握するための「定期テスト」を2回実施します。最初の定期テストの結果から一人一人に必要な手だてが明らかになってきます。そして、テスト後の繰り返しの学習を通して、弱点克服にあてる時間を十分に確保します。その弱点克服の成果を2回目の定期テストで確かめ、さらに同じように繰り返しの学習を行い、その後続く学期全体の評価・評定を行う「期末テスト」につなげていきます。こうした**繰り返しの評価を通して学習内容の定着を高めていく**ことが、本校2学期制のねらいです。前後期2回にわたって行われるこの評価システムを通して弱点を克服し、着実なレベルアップを図っていくことができます。
- ・テスト後に配付される「**成績カード**」から**自分の力をより客観的に把握**し、効果的な復習の手だてを講じることができます。努力の様子やその過程などもわかるため、自分のよさを自覚したり、学習の励みとしたりすることができます。

②学期の途中に長期休業が入ることにより、学習のステップアップが可能となります。

- ・学期ごとの評価・評定は、長期休業後の期末テストで行われます。長期休業前に自分の弱点がわかり、それを克服する計画を立て、長期休業を利用して復習に力を入れていけば、おのずと学習面の向上が期待できます。2学期制の特徴は、**長期休業中の学習をより効果的に行うことにより、その後に行われる評価・評定を高めていきやすい**ところにあります。長期休業を単なる休みとは考えず、その学期の途中にあるステップアップの時期ととらえることが大切です。

③3学期制と比べ、始業式と終業式が1回ずつ減り、長期休業前の学校生活にリズムが出てきます。

- ・7月、12月の時期に深く考えることやひとつの課題にじっくり取り組むことができます。
- ・7月の校外学習や12月の三者面談といった行事に時間をかけて取り組むことができます。
- ・**長期休業前の教育相談**を通して、長期休業中の生活や効果的な学習について先生と一緒にじっくり考えることができます。

Q 3 夏・冬休みに入る際、通信票をもとに生徒と保護者が話し合うことが多いと思います。通信票がないと、これができなくなるのではありませんか？

A 3 保護者の皆様には、子どもの学習状況などを知る手だてとしての情報量が減るのではないかという心配があると思いますが、学校ではテストや作品などの結果だけではなく、きめ細かな行動観察や対話などを通じた評価を積み重ねています。そうした情報は、**長期休業を利用した三者面談や家庭訪問**を通して生徒と保護者の皆様に伝えていきたいと考えています。また、テスト後に配付する「成績カード」は、個人ごとの得点、平均点、偏差値、学年順位など、学習状況が詳しくわかるようにしておりますので、活用してください。